

DIO読者倶楽部－薬剤師のホンネ－

調剤の「外部委託」、若い年代で賛成の割合高く

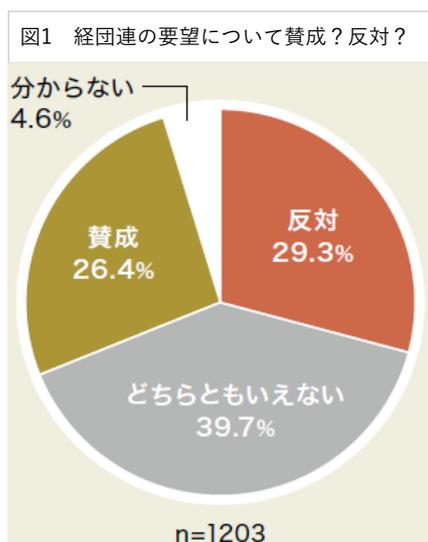
2022/03/09

河野 紀子＝日経ドラッグインフォメーション

日本経済団体連合会（経団連）が2022年1月に内閣府に提出した、調剤の「外部委託」に関する要望（関連記事：[調剤の外部委託を経団連が要望](#)）。早速、内閣府の規制改革推進会議のワーキング・グループでは議論が開始されており、厚生労働省でも3月10日の「薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループ」において議題として取り上げられる予定だ。

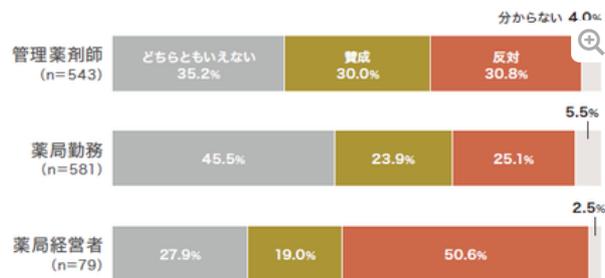
今回の経団連の要望について、現場の薬局薬剤師はどのように受け止めているのだろうか。日経ドラッグインフォメーションOnline（DI Online）では2022年2月8日～12日に薬局薬剤師会員を対象にウェブアンケートを実施した。

その結果、有効回答数1203人のうち、最も多かったのは「どちらとも言えない」で39.7%だったが、「反対」は29.3%、「賛成」は26.4%と、反対が賛成をわずかに上回っていた（図1）。



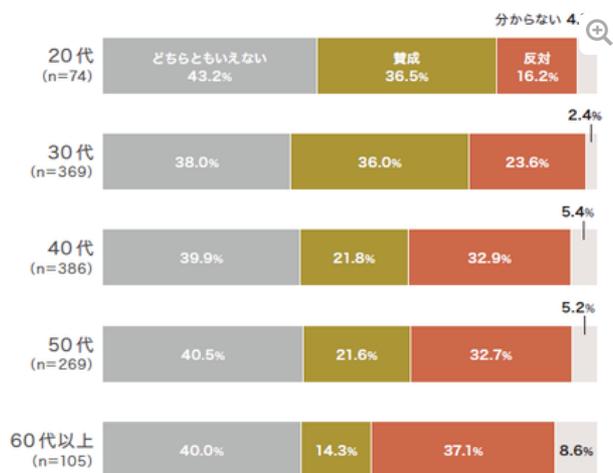
それぞれの回答について、回答者の属性別（薬局での立場、年齢、薬局の経営形態）に分析したところ、母数が少ないものの薬局経営者では「反対」が過半数を占めたが、管理薬剤師においては「反対」と「賛成」が拮抗する結果となった（図2）。

図2 薬局での立場別に見た回答結果
※クリックすると拡大表示されます



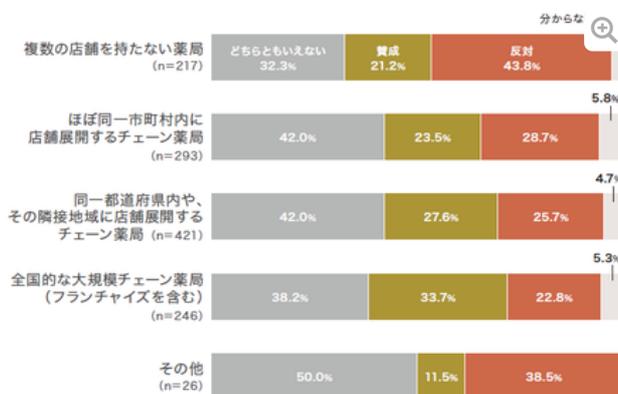
薬剤師の年代別に見ると、20代と30代においては「賛成」が「反対」を上回っていた一方で、40代以上では「反対」の方が多かった（図3）。世代によって経団連の提案に対する捉え方に違いがあるということなのか、興味深い点と言える。

図3 回答者の年代別に見た回答結果
※クリックすると拡大表示されます



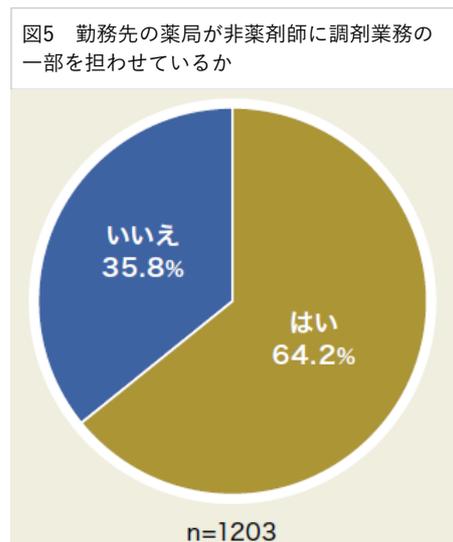
また、回答者が勤務する薬局の経営形態別に見ると、経営の規模や店舗網が大きくなるに従って、「賛成」の割合が高い傾向が示された（図4）。

図4 回答者の勤務する薬局の経営形態別に見た回答結果
※クリックすると拡大表示されます



さらに「反対」「賛成」などの理由を自由回答で尋ねたところ、反対する薬剤師からは、外部委託した場合の責任の所在や、薬剤師の雇用を不安視する声が目立った。賛成する理由としては、業務の効率化につながり対人業務に専念できることや、現場の薬剤師不足への対策として期待するなどの意見が上がった（回答の一部は、記事の最後に掲載）。

今回の調査では、勤務先の薬局が非薬剤師に調剤業務の一部を担わせているのかも聞いた。その結果、回答者の6割以上が、非薬剤師に調剤業務の一部を担わせていた（図5）。2019年4月の厚労省による事務連絡「調剤業務のあり方について」から3年が経過しようという今、薬剤師は薬剤師のみが行える業務に注力するという意識が薬局業界で醸成されている様子がうかがえた。



自由意見より

<調剤の「外部委託」に反対>

◆今までキャリアがある薬剤師はいいが、これから薬剤師になる人は実際の薬に触れないと、投薬時には薬学的知識だけではなく、薬の色や大きさなどの知識を含めた服薬指導が重要だと思う。

（20代、勤務薬剤師、全国的な大規模チェーン薬局 [フランチャイズを含む]）

◆付け替え調剤を認めているようなもの。薬局ごとに、色々な事情で後発医薬品の採用銘柄が異なるのに現状の供給問題から外部委託で調剤が対応できるとは思わない。機械化が進むのは構わないが一包化、散剤、混合軟膏など調剤技術や経験を積むことも薬剤師としては必要。

（30代、薬局経営者、複数の店舗を持たない薬局）

◆一包化に信頼がおけるのか疑問がある。同店内の信頼のおける薬剤師ならば通常絶対にしない間違い（通常用法を考えると数量が明らかに多過ぎる、一包化は不可の薬剤である、同時分包に適さない薬剤同士であるなど）が生じる可能性が怖い。

（30代、勤務薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局）

◆薬局でやるべき。対物業務も含めて薬剤師の業務であるし、必要以上の対人業務や患者への介入は不要と思う。

（30代、勤務薬剤師、全国的な大規模チェーン薬局 [フランチャイズを含む]）

◆薬剤師としての仕事が減っていきそうなので。

（30代、勤務薬剤師、ほぼ同一市町村内に店舗展開するチェーン薬局）

◆残薬調整などで細かく処方日数を調整して一包化する患者もおり、患者ごとに細やかな対応がしづらくなる。

(40代、勤務薬剤師、複数の店舗を持たない薬局)

◆外部委託を信用できればいいが、ジェネリックの製造でさえ不祥事だらけなので信用できない。どこかの過程で事故、隠蔽などが起こり、患者に被害が及ぶ可能性が大と思う。

(40代、勤務薬剤師、複数の店舗を持たない薬局)

◆調剤は決して対物業務の意味だけしかないとは思わない。自身が調剤することで処方内容に疑義や服用時のアドバイスの気付きにつながる場合もないとは限らない。かかりつけ薬剤師・薬局をいうならばその患者の全体を把握し、携わることが重要だと思う。

(50代、管理薬剤師、その他の経営形態)

◆最近、効率ばかりに目を向けて何もかも調剤業務をないがしろにする傾向があるから反対。

(50代、管理薬剤師、複数の店舗を持たない薬局)

◆外部委託することで時間がかかり患者に迷惑がかかる。

(60代以上、勤務薬剤師、複数の店舗を持たない薬局)

<調剤の「外部委託」に賛成>

◆対人業務の向上や時間をかけることができる。特に中小薬局で人数が手薄な場合や時間帯においてはその面で協力が得られることは大きいと感じる。

(20代、勤務薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局)

◆他業種ではアウトソーシングは当たり前であり、検討の余地はある。ただ、即時性やコスト面等、そぐわない処方箋内容も多くあるだろう。ワンドースの調剤や抗がん薬等高額薬品の調剤をアウトソーシングすることで在庫を抱えずに済む等、既に挙げられたメリットは十分あると思う。

(30代、管理薬剤師、ほぼ同一市町村内に店舗展開するチェーン薬局)

◆調剤は実質的に単純作業といえる工程が主なので、専門知識を特に必要としないことが多い。外部委託で効率改善は今後必要なことだと思われるが、時に配合変化や一包化の可否など、薬剤の特徴を把握する必要がある場面もあるため、それらをクリアできるシステムの流れは検討しなければならないと思う。

(30代、管理薬剤師、ほぼ同一市町村内に店舗展開するチェーン薬局)

◆対人業務を不得意にしている薬剤師も多いため、そのような薬剤師が活躍できる場となって良いと思う。社内のリソースもメリハリがつく。

(30代、管理薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局)

◆在庫の置けない小さな薬局でもより幅広く患者を受け入れられる。

(30代、管理薬剤師、複数の店舗を持たない薬局)

◆薬局で働いている時間のうち、調剤に関わる時間が7割くらい。患者に安全に薬を使用してもらうために薬剤師は働くべきだと思うので、今の7割の時間のうち半分でも他の方に行ってもらえたら、今の倍の時間を使って患者のために時間を使えると考えている。

(40代、管理薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局)

◆自動分包機で調剤・一包化しているので、信頼できる（監査済み）の一包化を外部委託しても問題がないと判断できる。

(40代、管理薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局)

◆もう40代の中堅薬剤師としては調剤の作業は重要ではない。在宅訪問を含めた対人業務、経営、新しい取り組み、薬剤師会を通じた地域貢献などに労力を振ってきたい。

(40代、勤務薬剤師、ほぼ同一市町村内に店舗展開するチェーン薬局)

◆チェーン店を含め一人薬剤師の薬局が多く、外部委託は鑑査、効率化の点からも有用である。

(60代以上、管理薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局)

◆薬剤師の雇用はお金がかかるため。

(60代以上、薬局経営者、複数の店舗を持たない薬局)

<どちらともいえない>

◆調剤業務のアウトソーシングは、業務負荷軽減と在庫コントロールという点で基本的には賛成の立場。しかし、スピード感や個々にカスタマイズした調剤という点で不安が残る。自前と委託を両立させることはコスト的にナンセンスだと思うので、現状においては現実的な選択肢とは考えにくい。

(30代、管理薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局)

◆薬剤師は薬学教育上で作業としての一包化やピッキングの特別な訓練を受けたものではない。多くは勤務開始後に作業としての技術を身に付けているので、外部委託による調剤は可能と考える。それが医療関係者や患者に受け入れられるかどうかはまた別の問題と考えるので、どちらともいえない。

(40代、管理薬剤師、ほぼ同一市町村内に店舗展開するチェーン薬局)

◆応需する処方内容によると思われる。小児科などの急性期対応の処方箋を多く応需する薬局では、速やかな交付がより求められるので、外部委託せずに自前で調剤するべきと思われる。慢性疾患の処方箋の割合が多くなければ、どこまで効率的に外部委託できるかが焦点になる。逆に慢性疾患が多く在宅等も手掛けている薬局ならば、この制度の利点を生かせるのではないかと考える。

(40代、管理薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局)

◆外部委託を行っても、対人業務を適切に行える薬剤師が少ないことが問題だと思う。

(40代、管理薬剤師、ほぼ同一市町村内に店舗展開するチェーン薬局)

◆地域フォーミュラーが浸透し、採用医薬品の統一化が進んだエリアであれば考えられなくもないが、現状では採用医薬品の施設間の相違が大き過ぎるため、非効率になると感じる。

(40代、管理薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局)

◆外部委託の料金次第かと思われる。中小にはニーズがあるとは言いが、当店は零細なので恐らくペイしない。

(40代、管理薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局)

◆私自身も淘汰されかねないが、社会保障費の増大や国民の利便性を考えれば安易に反対はできない。他の業界ではほぼ無人の工場が稼働しており、効率化されている。安全性については人より機器の方が信頼できるし、責任の所在に関してはこれから詰めていけばいい話。来局患者数が多い薬局の人間分包機のような薬剤師が未来永劫(えいごう)存在するとはとても思えない。これも時代の流れではないか。

(40代、管理薬剤師、同一都道府県内や、その隣接地域に店舗展開するチェーン薬局)

◆確かにニーズはあるのだろう。不足薬剤や余剰薬の在庫管理に頭を悩ませずに、薬剤師にしかできないポリファーマシーを考えたり、多職種連携等に時間を割ける

ようになる。でもやっぱり薬を触らなくなった薬剤師は寂しくなると思う。
(50代、管理薬剤師、ほぼ同一市町村内に店舗展開するチェーン薬局)

◆チェーン店内ではいいのではないか。
(50代、管理薬剤師、ほぼ同一市町村内に店舗展開するチェーン薬局)

◆安全性に問題があるのと、うちは委託するほどの規模ではないのでやらないが、委託したいところがやることに反対はしない。
(50代、管理薬剤師、その他の経営形態の薬局)

【調査概要】

2022年2月8日～12日。日経ドラッグインフォメーション Onlineの薬局薬剤師会員を対象にウェブアンケートを実施。有効回答数1203人、内訳は薬局経営者79人、管理薬剤師543人、薬局勤務581人。20代74人、30代369人、40代386人、50代269人、60代以上105人。

© 2006-2022 Nikkei Business Publications, Inc. All Rights Reserved.